大妻女子大学博物館所蔵掛軸の調査と研究(2)

Investigation and research on the hanging scrolls owned by the Otsuma Women's University Museum (2)

青木 俊郎[1]，髙塚 明恵[1]，下田 敦子[2]
Toshiro Aoki[1], Akie Takatsuka[1], and Atsuko Shimoda[2]

[1]大妻女子大学博物館，[2]大妻女子大学人間生活文化研究所

キーワード：大妻女子大学博物館，掛軸，皇室
Key words：Otsuma Women’s University Museum, Hanging scroll, Imperial family

１．研究目的

本研究では，大妻女子大学博物館（以下，「博物館」と略）が所蔵する掛軸資料について，撮影と調査を行った．

博物館では，掛軸資料を約 100 点所蔵している．これらの多くは，平成 19 年（2007）に整理された大妻コタカの遺品の中にあったものと思われるが，その来歴についての詳細は不明である．そのため，これらはどのような内容を持つ資料群なのか，またその来歴と年代，内容，そして利用の実態などについて詳細な調査が必要である．

そのため，令和 4 年度の共同研究プロジェクト（K2202「大妻女子大学博物館所蔵掛軸の調査と研究」）において，博物館所蔵掛軸の内，53 点の整理・撮影，調査を行った．

令和 4 年度の調査結果を踏まえ，令和 5 年度は残りの掛軸の撮影を行った．今回調査対象とする資料が，どのような目的で作成され，実際大妻の教育の場においてどのように利用されたのかを検討し，大妻教育の中での掛軸資料の位置づけについて検討する．

次に，掛軸資料全体に関わって，保存・伝来過程についての調査を行った．残存している木箱の調査から，掛軸整理の年代，掛軸の一括関係，その後の保存状況が判明する．ここから，大妻学院がどのような掛軸を重要と考えていたのか，どのような掛軸を一括して保存することで一連のものとして考えていたのか，何が契機となり掛軸を整理したのか，など，大妻学院の掛軸に対する意識についても検討していきたい．

２．研究実施内容

令和 5 年度の調査では，51 点について撮影および採寸を行った．そして撮影により得られた画像データを整理・分析し，各資料の内容，作者などの調査を行った（写真 1）．また，掛軸が収納されていた木箱 7 点についても，撮影・採寸・調査を行った．

今回調査を行った資料は，二つに分類することができる．一つ目として，「大日本帝国憲法告文・憲法発布勅語」・「陸海軍人に賜はりたる勅諭」・「教育勅語」・「戊申詔書」など，勅語・勅諭関係の掛軸である．これらは大型のものが多く，個人または家庭で用いられたというよりは，大妻学校において，教育用として使用されたものと推定される（写真 2）．

二つ目は，絵画関係である．「崖下一木図」・「観世音尊像」・「亀図」などである．これらの中には，宗教家・岡本天明による絵画や，コタカの喜寿を祝って贈呈されたものも存在する．

写真 1．採寸・撮影の様子

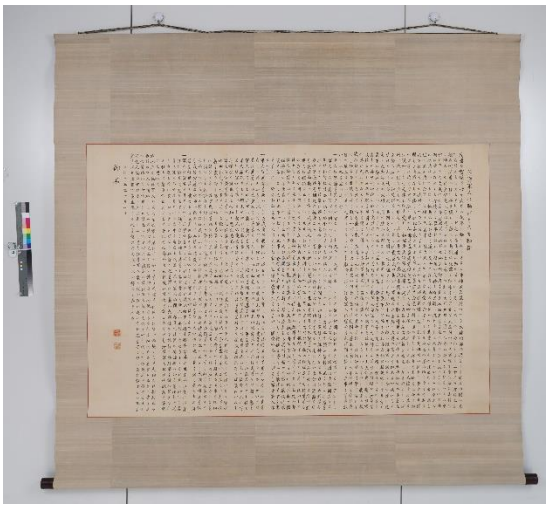

写真 2．川西呉城筆「陸海軍人に賜はりたる勅諭」

また，木箱の調査結果からは，以下の三点を指摘することができる．

第一点として，大妻学校によって一部の掛軸が木箱に収納・整理された時期は，大正 15 年（1926）10 月と昭和 3 年（1928）9 月である．なお，大正 15 年 10 月，大妻学校は設立十周年記念式典を行っており，10 周年を期に，重要と考えられる掛軸を整理したことが考えられる（写真 3）．

写真 3．木箱　内側

第二点として，木箱の箱書によれば，木箱には「天皇御製」，「昭憲皇太后御歌」，「教育勅語」，「戊申詔書」，「大妻学院校歌」，大妻学院の教育指針に関する掛軸などが納められていた．大妻学院では，皇室関連，勅語・詔書関連，校歌，学院の教育方針などの掛軸が重要視され，木箱内に保管されていたことがわかる（写真 4）．

写真 4．木箱　箱書部分

そして第三点として，一部木箱には焼損の痕跡が見られることである．ただし，その被害は木箱の外側にとどまっている．大妻学院では，1945 年の空襲や 1959 年の火災など，幾度かの火難を経験している．この焼損がいつの火災によってできたものかは不明だが，木箱への収納という整理作業により，これら重要視されていた掛軸が火災で焼失することを免れ，現在まで伝来している，ということが指摘できる（写真 5）．

写真 5．木箱　焼損部分

上記の調査成果をもとに，博物館において，特集展「教えの道は多かれど —掛軸から見た大妻の教育—」（会期：2023 年 10 月 2 日～12 月 21 日）を開催した（写真 6）．

この展示では，明治～昭和時代に作成された 11 点を展示した．展示した掛軸には，大妻学院の校訓や，教育的な標語などが記されており，大妻の学生・生徒たちを教え導いていったことを紹介した．会期中，688 人の来場者があった（写真 6・7）．

写真 6．特集展チラシ

写真 7．特集展展示風景

3．まとめと今後の課題

今回行った研究により,博物館が所蔵する掛軸は，大妻学院史にとって重要な資料群であることを再確認できた．特に，大妻コタカ旧蔵と思われるものは，コタカの交友関係が判明する．また，大妻学校で教材として使用されていたと思われるものは，教育内容の具体相が明らかとなる．今後，博物館収蔵品データベースや博物館における展示などで，その成果を公表していく予定である．

以下，今後の課題について二点述べる．

まず第一点目として，掛軸資料については，現在は博物館所蔵となっているが，その旧蔵者をさらに検討する点である．

例えば，コタカへの宛て書きがあるものは，コタカ旧蔵と推定される．また，教職員寄贈という外題があるものもある．これは，大妻学院に在籍していた教職員が学院，またはコタカへ寄贈したものであろう．

一方，勅語・勅諭関係の掛軸は，学院の教育用と推定されることから，学院旧蔵と考えられる．これらは，教育用として購入，または揮毫を依頼して制作したことが想定される．

また，岡本天明の掛軸は，これは誰がどのような理由で収集してきたのかは不明である．

このように，旧蔵者について個別の資料それぞれに調査し，どのような経過をたどって博物館が所蔵するに到ったのかについて引き続き検討する必要がある．

二点目として，二カ年に渡って行った共同研究プロジェクトにより，博物館が所蔵する掛軸資料については把握できたが，それ以外の未表具のまくり，額等が博物館に残存している点である．これらについては，仮整理も行われていないものも多くあることから，これらの資料についても調査を行う必要がある．

4．この助成による発表論文等

① 展示

大妻女子大学博物館特集展「教えの道は多かれど ―掛軸から見た大妻の教育―」（2023 年 10 月 2 日～2023 年 12 月 21 日）を実施．

② Web サイト

大妻女子大学博物館収蔵品データベース（https://jmapps.ne.jp/museum_otsuma/）において，特集展「教えの道は多かれど」で展示した資料 11 点を公開した．これ以外の資料については，今後公開予定である．

付記

本研究は，大妻女子大学人間生活文化研究所の研究助成（K2302）「大妻女子大学博物館所蔵掛軸の調査と研究（２）」を受けたものです.